

私は東日本大震災で、数々の惨状を見てきた。人の生き死にを見てきたからこそ、生きている自分がやるべきことが分かる。その気持ちは、まだ余震が続く被災地熊本へと向かう力となった。

熊本は2001年インターハイの思い出の地である。あの時見た雄大な熊本城はどうなっているのか？熊本に着いた私は真っ先に城に向かった。一部の石垣や塀は無残にも崩れ、城内へは立ち入り禁止の規制線が張られていた。城門から入城することができないまま、城を周回し、二の丸付近からやっと天守を拝むに至った。そこから見た天守や櫓は、15年前と同じ姿で、雄壮にそびえ立っていた。屋根の瓦もほとんど落ち、傷つきながらも威厳を保ち、熊本の人たちに勇気を与えていたのである。

その天守は、あれだけの巨大な津波とがれきを受止めながらも、シンボルであるマリンプルーの屋根を、生き残った我々に見せ続けてくれた旧高田高校の校舎を回想させた。

一関一 伊藤 仁士



石垣や屋根瓦が崩れた熊本城

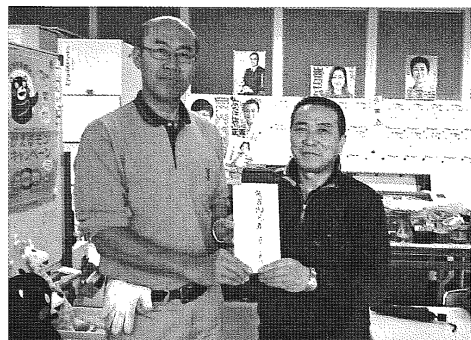
熊本高教組より見舞金のお礼状と情報「マンスリーハイスクール」(7月1日発行)が届きました。



岡本日教組委員長より熊本高教組へ見舞金(4月27日)

お見舞い金、義援金をいただいた皆様方
 日本教職員組合、教職員共済生活協同組合
 日本教育会館、日本教職員相互共済会、岩
 手県高等学校教職員組合、岩手県教職員組
 合、岩手県学校生活協同組合、岩手県学校
 現業職員労働組合、兵庫県教職員組合、新
 潟県教職員組合、新潟県高等学校教職員組
 合、沖縄県高等学校教職員組合、滋賀県教
 職員組合、神奈川県高等学校教職員組合、
 大阪府高等学校教職員組合、広島県高等学
 校教職員組合、奈良県高等学校教職員組合
 東京都高等学校教職員組合、鳥取県高等学
 校教職員組合、(財)労働教育センター、忠清
 南道市民団体訪問団など
 総額：1,323万円(6月30日現在)

その他、多くの皆様方からお見舞いや激
 励の言葉をいただきました。
 深く感謝申し上げます。特に、地震直後
 の交通機関も不安定な中、すぐに駆けつけ
 ていただきました兵庫県教組・岩手高教組・
 岩手県教組の各委員長には、自分たちの被
 災体験をもとにまず何をすべきかを的確に
 教えていただき、とても助かりました。岩手
 高教組・澤瀬委員長は、夜行バスで東京、飛
 行機で佐賀、そしてレンタカーで熊本へと
 来る駆けつけていただきました。
 今回の熊本地震で新たに覚えてきた問題
 を整理し、次につなぐ責任を感じています。
 (書記長/青木 栄)



澤瀬岩手高教組委員長より見舞金(4月24日)

全国からのご支援ありがとうございました

復興へ手をつなごう熊本